

市では、川越みんなの健康プランに基づいて、「たばこの害を知り、煙のない地域を目指します」と目標を掲げ、市民の健康づくりに取り組んでいます。

平成21年に行ったアンケート調査によると、市内男性の3人に1人、女性の10人に1人が喫煙しているという結果でした。右のグラフを見ると、男女共30歳代の喫煙者が多く、男性は年代が上がるにつれ、禁煙する人が増える傾向にあります。

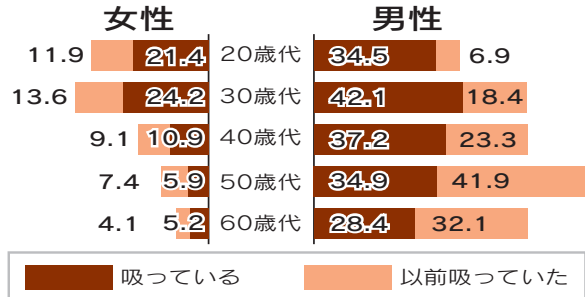
禁煙をすると、体が修復を始めます。最後の喫煙から20分以内に、血圧は最後の喫煙前に近いレベルに、手足の温度は正常に戻ります。24時間後には心臓発作の確率が減少し、さらに1年後、心臓疾患のリスクが喫煙者の半分になります。

喫煙中の人と一緒にいると、周りの人はたばこの先から立ち上がる副流煙を吸うことになります。副

流煙には、喫煙者が吸う主流煙より2~4倍の有害物質が含まれています。20歳~40歳代は、出産や育児をする方が多い年代。自分や大切な人の健康のためにも、禁煙を心がけたいものです。

禁煙治療には、保険が適用されます。一度禁煙外来へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

市内のたばこを吸う人の割合 (%)



- 事例**
- トイレの水が止まらないので、電話帳で調べた水道業者に修理してもらった。五万円を請求され、仕方なく支払ったが、高すぎるのではないか。
- 水漏れやトイレの詰まりなどの故障は、突然起こるものです。すぐ修理する必要があるため、数社の見積もりを比較検討することが難しく、結果的に思ったより高額になることがあります。
- 消費者へのアドバイス**
- ① 日ごろから水道の元栓やトイレ・台所・風呂の止水栓の位置と締め方を確認しておきましょう。
  - ② トイレの水が止まらないので、電話帳で調べた水道業者に修理してもらった。五万円を請求され、仕方なく支払ったが、高すぎるのではないか。
  - ③ 「見ないと分からない」と言われたら、来るだけでお金が必要か聞きましょう。
  - ④ 実際に来たら、作業前に見積もりしてもらい内容を確認しましょう。
  - ⑤ 緊急の際には、必要最小限の応急処置だけとし、依頼以外のことを勧められたときは慎重に判断しましょう。
  - ⑥ いざという時のために、信頼できる業者を探しておきましょう。
  - ⑦ トラブルが起きてしまった場合は、生活情報センターへ相談してください。

## 消費生活の豆知識

### その2 「水漏れ・トイレの詰まり」で修理が必要

生活情報センター ☎226-7066 (相談専用 ☎226-7476)

今回出かけたのは

## 川越再発見

### 「南大塚駅」


まちの魅力や小さな発見を紹介するコーナー。今年度は、駅周辺の散歩道がテーマ。

北口から、駅前広場に沿って新狭山方向へ歩くと、線路沿いに「0」と書かれた白い杭を見つけました。これは、鉄道の起点を示す標識。休止中の西武安比奈線は、ここから始まります。

駅前に戻り、東に進むと「つばさ」で「すずもとスーパー」のモデルになった店の前を通ります。その先を曲がると、路上に不思議な線路を発見。それは、前後が途切れ、使われていないようです。よく見ると、少し先で続きます。

寺と菅原神社があります。線路は、さらに、入間川の河川敷まで続きます。

で、再び線路は続きます。線路に沿って道を行くと、国道16号と交差。ほど近い場所には、毎年、成人式の前日に餅つき踊りが披露される、西福寺と菅原神社があります。



このシリーズは、自立生活問題研究所所長・谷口明広たぐくあきひろさんを招いて行った、人権問題講演会の要旨を人権推進課でまとめたものです。

障害のある方でも、ひとり暮らしをしたらそれで終わりなのかと言うと、決してそうではありません。もっと幸せな生活があると思います。

「谷口先生は、結婚して、子供が二人いる。大学の先生で収入が安定していて、社会的地位も、名誉もある。先生はもう何も要りませんよね」と私に言う方がいらつしゃいます。

腹が立つんですね。

私が「全然満足していませんよ。

私にそんなに終わりのように言わないでください。私は、これからまだ目指すものがあります」と言うのと、もっと聞いてくるんですよ。「谷口先生は、これから何を求めているらつしゃるんですか」としつこく聞かれるから、腹が立つんで「世界征服で

す」と答えます。

障害のある方は、大きな夢を持つてはならないとみんな思っているかもしれない。あなたの夢は何ですか。ディズニールランドに行くことですか。今でも連れて行きますよ。そんな小さな夢だけではダメです。周りの人は、障害のある方が、大きな夢を語れるような地域をつくっていた

だいたいと思っています。

私は、地域の力がものすごく大きいと思っています。この川越市に私を呼んでいただきました。皆さんのまちをまず、ノーマライゼーションのまちにしていたたく、福祉が充実したまち、福祉だけでなく、いろいろなものが充実したまちにしたい。今度ここに来たときに、私はここに住みたいな、ここに住所を移そうかなと思うようなまちにしたいだければ幸せです。(終わり)

品格あるまちを目指して

# 市長からの手紙



## 変えます。ここを！ ②「タイムレコーダー」

今年度中に、本庁舎、東庁舎などに、ICカード方式のタイムレコーダーを導入します。これは、時間管理を客観化し、規律の徹底と事務の効率化による残業の縮減を図るのがねらいです。そして順次、出張所などにも導入するというのが、現時点での考えです。

市役所では、これまで出勤簿に押印する方法で、職員の出退勤を管理してきました。しかし、この方法だと、上司が休んだり、先に帰宅したりすると、職員の出退勤を確認することが出来ません。そのため、どうしても時間管理が徹底しないきらいがあります。県内他市はどうしているのか、人口10万人以上の19市を調べました。タイムカードを設置しているのは戸田市のみで、タイムカードより進んだシステムまたはカード方式で管理しているところが越谷市、上尾市、狭山市、ふじみ野市の4市、それ以外は出勤簿などで管理をしています。中核市をみると、41市中、タイムカードによる管理は船橋市のみで、システムで管理しているところが21市、出勤簿などが19市という状況です(平成21年8月現在)。

本当は、時間管理だけではなく、個人ごとあるいは市役所全体での時間外勤務手当(残業手当)も直ちに計算してくれるようなコンピュータ管理システムの方が良いのです。しかし、そうした完全システムは、少なく見積もっても数億円かかります。そこで、完全システム化は庁舎建設の検討と連動させることにし、約1,000万円のできるタイムレコーダーを採用することにしました。これにより、事務量の増加や仕事の多様化に対応できるよう、事務の効率化を進め、職員の増員や残業をなるべく抑制していきたいと考えています。残業時間の増加は、職員の健康管理や財政面で好ましくありません。市職員の残業手当は、これまで年間総額で7億円から8億円かかっており、財政の厳しい状況から、残業時間の縮減を目指した取り組みを、昨年の夏以来展開中です。引き続き事務の改善などを行うに当たり、タイムレコーダーの導入は、効率的な行政運営にも役立つと期待しています。

川越市長 川合善明